

[千葉県・千葉市 中・高共通 英語科教員合格]
[実習校 船橋市立三山東小学校、船橋市立三山中学校]

好きこそ物の上手なれ

国際学部 こども教育学科 4年 神津 まどか

私は、大学3年生の夏まで小学校の教師を目指していた。しかし、短期海外留学を経験してから「英語に深く携わりたい！」という思いが強くなり、教員採用試験は中・高英語で受けることを決意した。

それからは英語の勉強に集中して取り組んだ。英語を好きでい続けられるように、英字新聞を読んだり、Skypeでフィリピンの先生とレッスンをしたりした。教員採用試験の対策として、早めに千葉県の傾向を分析すること、自分の弱点を知ることが大切だと思う。加えて、大学が主催する対策講座で弱点を克服していくことも必要だ。しかし、目先の教員採用試験よりも、自分の英語への向き合い方のほうが大切だと思った。「英語に一生携わりたい」という気持ちが、結果的に合格につながったと思っている。

面接や模擬授業の練習は、大学主催の対策講座に参加し、できる限り多く行った。幸いなことに、教員採用試験に向けて熱心に勉強していた友人も多く、不安や悩みを共有し合いながら、切磋琢磨することができた。

その他で、私が大切にしていたのは、毎朝の新聞を読む時間だ。なぜ新聞がよいかと言うと、様々な分野の情報を得ることができるからだ。教育の記事はもちろん、世界で起こっていることや、様々な立場や年齢の人の意見が掲載されているので、多くの人の意見に出会うことができる。新聞を読む習慣が身についてよかったと思った経験を紹介したい。船橋市立三山中学校での教育実習のとき、ある生徒に「先生、明日行われる国際的な会議を知っている？」「それって、どこの国で行われるのか知っている？」と尋ねられた。その質問に対して、多少の解説を織り交ぜて答えることができた。情報を得る手段はインターネットでも、テレビでもよいと思うが、日本や世界の出来事には常に关心を持つことが大切だと考える。これから出会う子どもたちもそうであってほしい。将来は生徒と共に、新聞を活用した活動にも挑戦してみたい。

船橋市立三山東小学校での教育実習では、最終日に数名の児童から1冊のノートを手渡された。私の授業について、休み時間に遊んだことについて、行事についてなど、日記のようにたくさんの思い出が書かれていた。教師の難しさを多く実感した教育実習だったが、子どもたちからのプレゼントには、何にも代えがたい喜びを味わえた。

最後に、教育実習で担当していただいた先生方から学んだことを記す。それは、「常に教師である意識を持つ」ことの大切さだ。子どもと遊ぶときも、一緒に掃除をするときも、子どもと一緒に全力で取り組みながら、心の中では冷静に子どもたちの人間関係を観察し、必要なときにはしっかりと指導する、これがプロの教師であると実感した。「よい授業も、よい学級運営も、すべては子どもとの信頼関係があってこそ」という船橋市立三山東小学校の校長先生のお言葉を胸に、これからの教師人生を歩んでいきたい。

[千葉県・千葉市小学校教員合格]
[実習校 茂原市立新治小学校]

周りの人の存在の大きさ

国際学部 こども教育学科 4年 関 千洋

私は、小学生の頃から抱いていた「小学校の教師になる」という夢を叶えることができました。同じ夢を持つ仲間、サポートしてくださった先生方、応援してくれた家族や友人、たくさんの人々に感謝の気持ちでいっぱいです。私が背中を押してもらったように、これから教師を目指す後輩の方に少しでもなれたら嬉しいです。

私が学生生活で大切にしてきたことは、「いろいろな経験をする」ということです。4年間続けた復興ボランティアの経験。大学2年生の時、勇気を振り絞って教育委員会に電話をし、小学校でボランティアをやらせてくださいとお願いしたこと。大学3年生での教職たまごプロジェクト。その他にも不登校児童と関わるボランティア、地域のお祭りスタッフなど、様々なことを経験しました。どれも最初のきっかけは「やってみたい」という興味からです。学生だからこそ、今だからこそ、できることがたくさんあります。その経験が必ず自分に返ってきます。教員採用試験に向けた勉強はもちろん大切ですが、いろいろなことにチャレンジして、日々の学生生活を充実させてください。

次に、大切にしてきたことは、「人との関わりを大切にする」ということです。大学4年間、同じ学年の仲間はもちろん、先輩や後輩、先生方、事務の方、警備員さん、地域の方、そして子どもたちなど、たくさんの人と関わりを持てました。私自身、人と話すことが大好きで、「話す」ことを通じてつながりを持てたと思います。自分にない考え方や、アドバイス、前向きになれる言葉をもらうたび、「頑張ろう」と思うことができました。教員採用試験に向けて対策している時期は、不安ばかり募り、自信をなくす毎日でした。そのような時、実習校の子どもたちがかけてくれた言葉を思い出し、自分を奮い立たせました。合格発表で自分の番号を見つけたとき、本当に周りの人に恵まれていたなど、心の底から思いました。

教員採用試験までの期間、私はいろいろな思いと葛藤しました。3年生の春、対策講座を受けている最中に、教員を目指すことを辞めようとも思いました。それは、自分が教師に向いているのか分からなくなつたからです。その時も、「向き不向きはやってみないと分からない」「待っている子どもたちがたくさんいる」と、周りの人に背中を押してもらいました。それから毎日モチベーションを保ちながら、友人と一緒に朝から夜まで学校に残って勉強をしました。土日には何人かで集まって試験対策をしました。1次試験は筆記のため、分からない分野を友人に質問し、自分が集中できる場所を見つけ、ひたすら問題を解きました。2次試験の対策としては、講座以外の人でも集まり、面接練習や、模擬授業について意見交換をしました。教員採用試験は、一人では絶対に乗り越えられません。上記のように、私にとって周りの人の存在は本当に大きいものでした。是非、皆で夢を掴んでください。

[東京都小学校教員合格]
[実習校 成田市立加良部小学校]

人と繋がりを大切に

国際学部 こども教育学科 4年 菊地 恒平

東京都の教員採用試験を大学推薦特別選考で受験し、合格した。地元である千葉県を離れ、大学の仲間とは違う状況で行った受験であったため、難しい部分もが多くあったが先生方、学内や学外の仲間など、周りの協力があったからこそ最後まで努力し、合格することができた。皆様方に心から感謝の気持ちを申し上げる。受験にあたり、具体的に取り組んだことを2つ記す。

現場で学ぶ

私は千葉県で生まれ育ったため、東京都の教育についての知識はほとんどなかった。そこで、都内で校長経験のある先生に「東京都の教員採用試験を受験することにしたので、東京都の学校現場を知る機会が欲しい」と相談したところ、台東区の小学校を紹介いただいた。4月から週2回、台東区の小学校で勤務をして、先生方にお話を伺ったり、授業を見たり、児童と関わったりして、東京都の教育のよさや特徴を理解するようにした。私と同じく東京都の教員採用試験を受験する方も勤務していたため、勤務後、一緒に小学校全科の勉強を行ったり、教員採用試験に関する情報を交換したりして、励まし合いながら勉強に取り組むことができた。また、台東区教育委員会に先生がいらっしゃるときは、「2時間集中」という目標を決め、小論文の勉強を見ていただいた。小論文の勉強では字を丁寧に書くことから始め、新聞や本の読み込み、知識を深めるなど、時間をかけて行った。

この小学校で学んだことは、教員採用試験の面接でも活用できることが多かった。小学校全科や教職教養の勉強に加え、学校の現状や問題点について学べたのはとてもよかった。

仲間と協力する

1次試験、2次試験共に、先生方や仲間の協力があったからこそ合格できたと感じている。1次試験では一人で勉強に取り組む時間もあったが、2次試験では仲間と協力する時間が多かった。対策講座の面接練習では、東京都での学校勤務経験がある先生や、現在東京都の学校で働いている卒業生など、東京都に特化した対策を行っていただいた。対策講座の後や対策講座がない日はゼミで集まり「自主ゼミ」という形で面接練習を行った。この「自主ゼミ」はほぼ毎日行われ、お互いをよく知っているからこそ、素直に意見を伝え合い、情報を交換することで面接の応答に関する内容を深めることができた。大学以外にも、台東区の小学校で出会った先生方や仲間、中学や高校の同級生など、様々な方々に多様な視点で面接をしてもらうことで、自信をもって試験に臨むことができた。

上述のように、多くの方々の協力があり、「合格」という結果にたどり着くことができた。人との出会いを大切にすることは「教員」としても重要な資質や能力の一つだと考えている。関わっていただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、来年度からの教員生活に向けて努めたい。